

## 和歌山県立医科大学の英語医療面接の授業に参加しました。

12月3日、和歌山県立医科大学で行われた英語医療面接の授業に、留学生4名が参加しました。留学生の役割は、模擬患者となって、医師役の学部2年生と英語で応答するものです。患者役は40歳という想定ですので、20代前半の留学生たちは、40歳になったつもりで激しい頭痛の症状を訴えていました。県立医科大学では、実際に英語を話す模擬患者を相手に実習をするのは初めてのことで、医師役の学生にも恥じらいが見られましたが、ひとりの患者役に2名の医師役が協力しながら、頭痛の他にも症状はないか、日頃の生活習慣に問題はないか、既往歴、家族の既往歴などから、頭痛の原因を探ろうと試みていました。実習中は、医療英語のネイティブの先生が各グループを巡回し、タイムリーなご助言をくださったのがとても参考になり、参加した留学生にとっても良い勉強になりました。なお、実習には、県立医科大学に留学中の方々も患者役で参加しました。

初めての試みでしたが、実習に参加した学生さんたちに好評だったようで、また授業に参加させていただく機会が楽しみです。



ブルガリアからの留学生とフランスからの留学生3名が参加しました。

留学生たちは、和歌山に少しでも貢献できることがあると、たいへんやりがいを感じています。自分たちの暮らす地域への恩返しの気持ちで取り組み、とても励みになるようです。

2015年12月3日  
国際教育研究センター